

	下痢時	4	3	0
	排便時	4	4	0
	嘔吐時	4	5	0
	口腔乾燥時	4	6	0
	吐き気時	4	7	0
	空腹時	4	8	0
	出血時	4	9	0
腎	乏尿時	5	1	2*
	乏尿時〇〇mL/時間未満	5	1	5*
	多尿時	5	2	2*
	多尿時〇〇mL/時間以上	5	2	7*
	むくみ時	5	3	0
精神 神経	不眠時	6	1	0
	不安時	6	2	0
	不穏時	6	3	0
	いらいら時	6	4	0
	けいれん時	6	5	0
	めまい時	6	6	0
	疲労時	6	7	0
熱	発熱時	7	1	2*
	発熱時 (〇〇度以上)	7	1	7*
	悪寒時	7	2	0
皮膚	かゆい時	8	1	0
	発疹時	8	2	0
その 他症 状	発作時	9	1	0
	症状ある時	9	2	0
医療	検査前	A	1	2*
	検査前〇〇分	A	1	4*
	検査時	A	2	2*
	検査後	A	3	2*
	手術前	A	4	2*

	手術中	A	5	2*
	手術後	A	6	2*
	処置前	A	7	2*
	処置時	A	8	2*
	処置後	A	9	2*
生活	起床時	B	1	0
	入浴前	B	2	0
	食事前	B	3	0
	食事後	B	4	0
	就寝前	B	5	0
	外出時	B	6	0
	哺乳時	B	7	0
その他	必要時	W	1	0
	適宜	W	2	0

*のある付帯条件区分コードは表7に従い、例えば次のように使用できる。

付帯条件区分 0： 特に付帯条件なしでイベント時、任意使用でよい

付帯条件区分 2： 特に付帯条件なしでイベント時、使用必須

付帯条件区分 4： 指定数値（単位付き）に等しい時、使用必須

付帯条件区分 5： 指定数値（単位付き）未満の時、使用必須

付帯条件区分 6： 指定数値（単位付き）以下の時、使用必須

付帯条件区分 7： 指定数値（単位付き）以上の時、使用必須

なお、指定数値は使用する単位と必ずペアで、本コードとは別に記述する。

その記述方法は各システムに委ねる。

表 9 頓用時の時間間隔コード表

1時間以上あけて	1
2時間以上あけて	2
3時間以上あけて	3
4時間以上あけて	4
5時間以上あけて	5
6時間以上あけて	6
8時間以上あけて	8
12時間以上あけて	C(英大文字シー)

表 10 頓用時の上限回数コード表

1日1回まで	1
1日2回まで	2
1日3回まで	3
1日4回まで	4
1日5回まで	5
1日6回まで	6
1日7回まで	7
1日8回まで	8
1日9回まで	9
1日10回まで	A
1日12回まで	C(英大文字シー)

表 11 外用回数指定コード表

外用用法(回数指定)	第4桁	第5桁
1日1回	1	0
1日2回	2	0
1日3回	3	0
1日4回	4	0
1日6回	6	0
1日3回程度	3	A

1日4回程度	4	A
1日6回程度	6	A
1日1～2回	1	2
1日1～数回	1	N
1日2～3回	2	3
1日3～4回	3	4
1日4～5回	4	5

表 1 2 外用時間間隔指定コード表

外用用法(時間間隔指定)	第 4 桁	第 5 桁
2～3時間毎	2	3
4～6時間毎	4	6

表 1 3 外用部位コード表

部位名称	左右指定 なし	左	右	両(左右)
全身	010	01L	01R	01B
頭皮	120	12L	12R	12B
頭部	130	13L	13R	13B
頭頂部	140	14L	14R	14B
後頭部	150	15L	15R	15B
ひたい	210	21L	21R	21B
顔	220	22L	22R	22B
まゆ	230	23L	23R	23B
まゆのまわり	240	24L	24R	24B
まぶた	250	25L	25R	25B
眼	260	26L	26R	26B
目のまわり	270	27L	27R	27B
頬	310	31L	31R	31B
鼻	320	32L	32R	32B

鼻のまわり	330	33L	33R	33B
鼻の下	340	34L	34R	34B
鼻腔内	350	35L	35R	35B
耳	420	42L	42R	42B
耳たぶ	430	43L	43R	43B
耳のうしろ	440	44L	44R	44B
耳のまわり	450	45L	45R	45B
耳の中	460	46L	46R	46B
口	520	52L	52R	52B
口のまわり	530	53L	53R	53B
口唇	540	54L	54R	54B
口腔内	550	55L	55R	55B
口腔内ほほの内側	560	56L	56R	56B
口腔内上あご部	570	57L	57R	57B
上歯茎部	580	58L	58R	58B
下歯茎部	590	59L	59R	59B
舌	5A0	5AL	5AR	5AB
舌の裏側	5B0	5BL	5BR	5BB
喉の奥	610	61L	61R	61B
扁桃腺部	620	62L	62R	62B
下あご	630	63L	63R	63B
首	640	64L	64R	64B
うなじ	650	65L	65R	65B
肩	710	71L	71R	71B
上肢	720	72L	72R	72B
腕	730	73L	73R	73B
上腕	740	74L	74R	74B
前腕	750	75L	75R	75B
ひじ	760	76L	76R	76B
手	770	77L	77R	77B
手の甲	780	78L	78R	78B
手のひら	790	79L	79R	79B

手の指	7A0	7AL	7AR	7AB
手の指の間	7B0	7BL	7BR	7BB
手の爪	7C0	7CL	7CR	7CB
手足	7D0	7DL	7DR	7DB
体幹部	810	81L	81R	81B
背中	820	82L	82R	82B
上背部	830	83L	83R	83B
脇の下	840	84L	84R	84B
全胸部	850	85L	85R	85B
乳房	860	86L	86R	86B
乳房まわり	870	87L	87R	87B
乳首	880	88L	88R	88B
上腹部	890	89L	89R	89B
下腹部	8A0	8AL	8AR	8AB
へそ	8B0	8BL	8BR	8BB
へそのまわり	8C0	8CL	8CR	8CB
臀部	8D0	8DL	8DR	8DB
陰のう	8E0	8EL	8ER	8EB
陰部	8F0	8FL	8FR	8FB
股間部	8G0	8GL	8GR	8GB
肛門部	8H0	8HL	8HR	8HB
肛門周囲	8J0	8JL	8JR	8JB
下肢	910	91L	91R	91B
ふともも	920	92L	92R	92B
ふともも後ろ	930	93L	93R	93B
ふとももとすね	940	94L	94R	94B
膝	950	95L	95R	95B
膝のうら	960	96L	96R	96B
すね	970	97L	97R	97B
ふくらはぎ	980	98L	98R	98B
くるぶし	990	99L	99R	99B
かかと	9A0	9AL	9AR	9AB

足	9B0	9BL	9BR	9BB
足の裏	9C0	9CL	9CR	9CB
足の甲	9D0	9DL	9DR	9DB
足のゆび	9E0	9EL	9ER	9EB
足のゆびの間	9F0	9FL	9FR	9FB
足の爪	9G0	9GL	9GR	9GB
かゆい所	A10	A1L	A1R	A1B
カサカサした所	A20	A2L	A2R	A2B
じくじくした所	A30	A3L	A3R	A3B
ひどい所	A40	A4L	A4R	A4B
褥瘡部	A50	A5L	A5R	A5B
発赤部	A60	A6L	A6R	A6B
発疹部	A70	A7L	A7R	A7B
ストマ部	A80	A8L	A8R	A8B
カテ挿入部	A90	A9L	A9R	A9B
患部	AA0	AAL	AAR	AAB

記録：

本仕様の策定にあたっては以下のメンバーが当初参加・協力した。(氏名順不同、所属は当時)

大江和彦(東京大学、日本医療情報学会標準策定・維持管理部会長)、土屋文人(国際医療福祉大学、内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討会)、篠田英範(JAHIS)、下邨雅一(富士通)、中田英男(日本電気)、橋詰明英(日立製作所)、山口一人(富士通)、大月宏(日本電気)、望月聡一郎(厚生労働省)

検討WG開催日程：第1回2010年2月26日、第2回2010年3月11日、第3回2010年6月18日、第4回2010年7月1日、第5回2010年8月4日、第6回2010年10月5日

2010年11月21日 日本医療情報学会標準策定・維持管理部会の下に正式に「処方用法コード標準化検討WG」が設置され、以下のメンバーとなった。

WG座長：大江和彦

WGメンバー：土屋文人(内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討会)、古川部会員(薬剤担当)、玉川部会員(歯科担当)、宇都部会員(看護担当)、近藤部会員(臨床担当)、大月宏(日本電気)、篠田英範(JAHIS)、下邨雅一(富士通)、中田英男(日本電気)、橋詰明英(日立製作所)、山口一人(富士通)。

2011年6月17日幕張メッセ国際会議場にて処方用法コード標準化検討WGを開催し、マイナーな修正をもって部会にあげることにした。

2011年9月29日付けで一般社団法人 日本病院薬剤師会と社団法人 日本薬剤師会により、「内服薬、外用薬に関する「標準用法用語集(第1版)」が公表され、本マスタのベースとなる標準用法が公式に確定した。これに合わせてマイナーな修正と追加を行い、本マスタ仕様が完成した。

2012年2月16日日本医療情報学会理事会(オンライン)において日本医療情報学会標準として承認された。

